

中尊寺金色堂新覆堂 見学記

東北の晩秋に小雪が舞う中を、中尊寺金色堂へと向かう [\(クリックしてビデオを見る\)](#)



前方が中尊寺金色堂新覆堂

[\(クリックしてビデオを見る\)](#)



拝観料を払って金色堂へと進む



参詣する者が登る石階へと進む

[\(クリックしてビデオを見る\)](#)



平成23年6月26日、中尊寺などの文化遺産で構成される平泉が世界遺産登録を受けた/その代表的建築物が金色堂であり、このアングルの写真が一般に知られている/しかし、この建物は金色堂を保護する為の覆堂である



大岡實建築研究所では、この「新覆堂」の設計を成している/写真を見ると、上っていく石段にサッと差し出された庇の深さと、軒の線の柔らかさが、建物全体の優しさを印象付けている



柱、長押、垂木などの部材はすべてコンクリート打放し/壁、軒天井は白の塗装/一切彩色をしないことにより、透明感を出し、建物の存在感を抑えている/これは内部に入った瞬間の金色堂の美しさを、さらに際立たせるための演出となっている/主役はあくまでも金色堂であり、覆堂はそれをそっと包みこむ役目を果たしている



シンプルな意匠は美しく、軒下の優しさを醸し出している [\(クリックしてビデオを見る\)](#)



コンクリートの肌は、半世紀を経ても美しく、素木材にも決して劣っていない/むしろ、コンクリートの色そのものが、この覆堂の優しさを感じさせる一因となっているようだ [\(クリックしてビデオを見る\)](#)



参詣する者が登る石階を見たところ



こちらは経蔵/国重要文化財/一部平安時代の古材が使用されているが、建築年代は鎌倉末期と推定されている
[\(クリックしてビデオを見る\)](#)



こちらは旧金色堂覆屋/国重要文化財/建築年代は室町時代中頃と推定される/左手には松尾芭蕉の銅像が立つ



700年以上、金色堂を守り続けて来たが、老朽化のため新覆堂にその役目を譲った

[\(クリックしてビデオを見る\)](#)



内部の様子



こちらは白山神社能楽殿/嘉永6年(1853年)に仙台藩によって再建されたもの/近世の能舞台遺構としては東日本唯一のものとされる/国重要文化財 [\(クリックしてビデオを見る\)](#)



平安時代末期に創建されたとすると、やはり奥州藤原氏の文化の高さが感じられる

